

笑顔とダンスで まちを盛り上げる

羽生市で行われる世界キャラクターさみっとin羽生や、地域のイベントでダンスパフォーマンスを行うムジナキッズ、小学生から高校生で構成されるメンバーたちに、活動への思いを聞いた。

ムジナもとと一緒に 羽生市PRのために活躍

地域をPRするため、全国の各市町村で生まれたご当地キャラクター。そのブームは2010年頃にピークを迎えたが、羽生市では2001年からご当地キャラクター作りを推進する、羽生市キャラクターグッズ研究会を立ち上げていた。

郷土色のあるグッズや羽生の方言、特産物などをピックアップして検討を重ねた結果、2003年にイラストでキャラクターを

発表。2007年に着ぐるみ化された。

キャラクターの主役は、羽生市に生息する国指定天然記念物のムジナモと、伝説の妖怪「むしな」を組み合わせたムジナもん。ほかにも、いがまんちゃんを始め11人の仲間がいる。そして現在、ムジナキッズという小学5年生から高校3年生までの11人で構成するダンスチームもある。

「ムジナキッズは、ご当地アイドルユニットとして結成したチームではありません」と、微笑みながら明言するのは、羽生市役所

キャラクター推進室の岡村杏奈さんだ。

当時、ムジナもんをはじめとするキャラクターは、腕や足の動きに制限があり、喋ったり活発に動いたりはしなかった。

「そこで、ムジナもんの動きを補佐するためダンスチームを作ろうという計画が、着ぐるみ制作時に立ち上がったのです」と、岡村さんは続ける。

ご当地キャラクターへの馴染みや理解が薄く、着ぐるみを作るのもやっとなったため、ダンスチームの結成は難航した。しかし、

羽生だ。世界中からご当地キャラクターが集まり、2日間で30万人以上の来場者を迎える。ムジナキッズは第3回の開催年に結成され、1期生たちが初ステージを踏んだ。これを契機に毎年パフォーマンスを披露。一昨年は、初めてレコーディングに挑戦したオリジナル曲で、イベントのオープニングアクトを飾った。

「最近では、ムジナキッズに来てほしいという名指しのリクエストもあるんですよ」と、羽生市役所キャラクター推進室の大塚衣莉さんは笑顔を見せる。

観客の笑顔でほぐれる ステージの緊張

現在、ムジナキッズは高校生になった1期生の4人と、2016年に募集した2期生の小中学生7人、合計11人で構成され、市内の各所イベントへ、ムジナもとと一緒に出演している。

小学生から高校生の多感な時



泰居さんから振付の指導を受ける。楽しさを表現すると同時に、美しく見せるのも大切なポイントだ



羽生市役所キャラクター推進室 岡村杏奈さん 泰居真奈美さん 羽生市役所キャラクター推進室 大塚衣莉さん

振付の一部と、全体の見せ方や揃え方などの指導を行うのは、市内在住の日本舞踊師範の泰居真奈美さん。「塾やクラブ活動などを優先するため、練習日は特に決めていません」と言うが、練習時間内はみんな真剣だ。2期生からは「踊ると疲れるけれど楽しい」「学校のクラブでもダンス部に入っています」というほど、彼女たちの生活にはダンスが入りこんでいる。

期に、何度も舞台に立った1期生には、どんな思いがあったのだろうか。

「かつては、ステージの大きさに限らず、緊張が顔に出てしまいました」と言うのは、松村美里さん。なかなか慣れなかったある時、観客の女性が自分の振付を真似ながら、笑顔で楽しそうに踊っているのを見た。

「あの日から、ステージの上ですらいつでも笑えるようになりました」と

沖野花音さんも、直前までは緊張するがステージ上では腹をくくってしまおうと話す。一方で、根岸菜由さんは、「私はワクワクする気持ちの方が大きいです」と言い、沖野結香さんは、「高校を卒業しても続けていきたい」と抱負を語った。

少しずつステップアップしていくムジナキッズに、岡村さんは、「これからもムジナもとと一緒に羽生市のPRを頑張ってもらいたいです」と、語る。

岡村さんは最近、どうしたらムジナキッズに入れるのか、市民から問い合わせを受ける機会が増えたそう。ムジナもんを好きになってもらうのも、ムジナキッズを応援してもらうのも、目的は羽生市への郷土愛を育んでもらうため。「だからムジナキッズが、地の憧れの存在になるのを目の当たりにし、本当に嬉しいです」。イベントで彼女たちのパフォーマンスを見る機会があったら、ぜひ応援してほしい。きつと、とびきりの笑顔を見せてくれるはずだ。

■ムジナキッズについての問い合わせ先/
羽生市役所キャラクター推進室 TEL.048-560-3119 羽生市中央3-7-5 羽生市民プラザ内

あなたも名ダンサー！踊ってみた動画を大募集！

表紙で公開した動画「Hello!!Hanyu☆Hanyu」を、友だちや同級生、会社の皆さんと踊ってみませんか？曲に合わせた動画を投稿してください。「とねじん」誌上で公開させていただきます。
※音源を希望する場合はキャラクター推進室まで問い合わせを。

動画応募先

DVDなどの記憶媒体を郵送するか、インターネットのファイル送付サービスを利用ください。なお、お送りいただいたデータは返却いたしませんのでご注意ください。応募作品には、①投稿者のお名前とご連絡先、②ダンスチーム名を忘れずに明記してください。なお、①は公開いたしません。

動画についてのお問い合わせ、送付先

〒361-0073 行田市行田19-8 SKビル2階
とねじん編集部
TEL.048-577-7391
tonejin@chuco.co.jp



ムジナキッズ1期生

左から、根岸菜由さん、松村美里さん、沖野結香さん、沖野花音さん

フリモAR アプリをダウンロード
App Store からダウンロード Google Play からダウンロード
で「フリモAR」を検索
※Apple社よりApp Storeは本誌の場で登録されたApple Inc. の商標です。App StoreはApple Inc. のサービスです。
※Google Play および Google Play ロゴは Google Inc. の商標です。



1期生にはそれぞれのテーマカラーがあり、練習時その色に合わせたコーディネートをする。全員で音楽に合わせて、何度も練習を繰り返す